

〈目的〉家庭の外で働く女性の増加に伴い、家庭をめぐる諸問題は母親の就労と結び付けて論じられがちであるが、食生活もその例外ではない。食生活は、栄養を摂取することにより健康を保つ生理的機能に加え、食事を楽しく食べることにより心理的安定を得る心理的機能、また、食事の準備や食べ方を通じて、子供のしつけや教育がなされる社会的機能をもつ。従って、家族機能遂行にとり食生活は重要な役割を果たすものと考えられる。これまで家族と食生活の関係は、生理的機能を中心に主に栄養学の立場から行われており、心理面、社会面に関する研究は少ない。本研究では、母親の就労と食生活のもつ心理的機能に着目し、母親の就労により影響を受けた食生活が、家族関係にどのように反映するかを明らかにすることを目的とする。

〈方法〉第1報と同様である。

〈結果〉①基本的属性、及び母親の就業形態は第1報と同様である。

②全就業形態において、家族の安定に最も寄与していたのは、家族全員が揃うことよりも食事中の会話であり、父親抜きのだんらんが推察される。

③パート主婦家庭では、母親の手抜きが家族の安定にマイナスに働き、外食がプラスの影響を及ぼしている。

④常雇主婦家庭では、家族が食事に揃うこと、及びだんらんが、家族の安定の規定要因となる傾向があった。

⑤自営、及び無職主婦家庭では、食生活と家族の安定との関連が弱かった。